

碧水だより

平成20年 6月 5日発行 第2号
阿蘇市立碧水小学校 文責 麻生廣文
主な記事：(1面)本校教育のめざすもの
校長室だよりから(ほめる、叱る)
(2面)6年生修学旅行、交通安全教室等
5年生田植え、放課後子ども教室等

学
ぶ
心
鍛
う
心
磨
く
心

清らかな碧水の心を育てるために

取組の両輪「豊かな心の育成」「確かな学力の育成」



写真は、六月三日に行われた「肥後チャボ贈呈式」の様子です。肥後チャボ保存会の人から五月中旬に贈呈したお話を、本校の今年度の取組の一つにあげた小動物の飼育や花・米・野菜の栽培活動の充実の一環として、お受けしました。吉永嘉保保存会会長、保存会の貴田哲郎さん・松崎正治さん・校区の保存会員の高宮達生さん、熊日、阿蘇市広報担当の来られ、一、二年生の参加の盛況に行いました。同時にカブトムシの幼虫も二十匹いただきました。このように子どもたちに飼育・栽培活動をおして、友達と協力して生き物とふれあったり、育てたりしながら「豊かな心」を育てます。各クラスでは、ザリガニや金魚、メダカ、ハムスターなどをそれぞれのクラスに応じて育てています。今後は、花や野菜の栽培活動も始めます。

また、昨年度より交通マナー向上を視野に入れた静かな廊下歩行やあいさつ運動、トイレのスリッパ並べなど、「碧水三つの運動」を重点事項として取り組んでいますが、「静と動、めりはりのある学校」を合い言葉にして、一年間取り組みます。



確かな学力の育成

子どもたちの学力の状況につきましては、全国標準学力調査では、全国水準をやや上回る結果が出ていますが、文部科学省の全国学力調査や熊本県学力調査の結果では、基礎的・基本的事項に関する知識や技能の定着率に比べ、それらを活用して問題解決を図る力などに課題があります。このことを受けて、本校でも読解力や論理的思考力の育成にポイントをおいています。すべての計画・経営案に言語活動との関連を挿入しました。一年間かけて言語環境の整備や言語活動の充実を図ります。校内研究では、昨年に引き続き、国語科を核にした「話す・聞く」活動を突破口にして、充実を図ります。また、家庭学習の状況調査からその充実を図る必要も高いので、家庭との連携のもと、自学自習の態度の育成にも取り組んでいます。



読書活動の推進

豊かな心を育て、学力充実を図るもう一つの取組が、「読書活動」の充実です。本校は、平均年間八十冊以上の個人読書量を誇る学校ですが、ノーテレビ・ノーゲームデーなどもからめて、親子の対話時間を確保したり、親子読書など家庭における読書活動をさらに推進したりします。

職員向け五月校長室だよりから

「ほめる・叱る」

子どもたちも落ち着き、勉強も充実し始める時期になりました。部活動も始まりました。子どもたちは、廊下歩行や健康診断の態度また、体育の時間など、静と動、めりはりのある学校生活を送っています。我が家のことで恐縮ですが、珍しく晩ご飯を作っている娘。数日続く。いつまで持つやら。「おいしい」と声をかけるが、反応は鈍い。年頃なので、干渉されているような言葉かけに敏感である。かと思つと、機嫌が悪いとふてくされる。火に油を注ぐのでかける言葉が見つからない。人の心は量りにくく、言葉かけは難しいものです。

さて、五月十八日から六年生が楽しみにしていた修学旅行がありました。それまでの六年生の生活態度を見ていましたら、大変落ち着いてました。楽しい旅行になりました。昨年の臨海学校で見た姿とまた、ひと味成長した姿がありました。高学年の内科健診で、五年生の子もたちが静かに待っている光景に出会いました。高学年になったという自覚がみなぎっていました。きつと委員会や学校行事で活躍し、六年生と一緒に頑張ってほしい伝統を伸ばして欲しいです。

廊下ですれ違った子どもたちに、どんな声かけをするか、いつも迷います。元気のよい挨拶をする子。静かに歩く子。目がきらきら輝いている子。図書室の本を大事そうに持つ子。・・・しっかりと子どもたちの様子や行動を見ることが始まりそうです。

「ほめる」と「おだてる」、「叱る」と「けなす」の違い。ほめてもおだてないこと。叱つてもけなさないこと。ほめたり叱つたりするには、時間をかけてじつと任せ、見守ることが大切だと思つていきます。論語の中に、「子曰、驥不稱其力、稱其德也」というのがあります。「子の教え。名馬の驥(き)についてはその体力や速力をほめてはいるわけではない。その節度ある風格をほめてはいるのだ。」(驥：一日に千里を走る名馬) テレビを見ると、低俗さが一段と進んでいるように思います。下品な笑いや乱れた言葉の中で、子どもたちはどのように育つていくのでしょうか。「品格・品性」「見識」という言葉は死語になりつつあります。

おだてずほめるとは、能力をほめず、品格や品性をほめることかな。けなさず叱るとは、性格を指摘せずに、事実や行動を指摘することかな。断片で見ずに、事実や行動の断片をつなぎ合わせると見えてくるものがあるのかな。こつこつ考えに行き着きました。

スピードや利便性を追求する時代にあつては、より正確さが求められます。こんな時代にあつては、川路聖謨(幕末の外国奉行)の「これは急ぎの御用だからゆつくりやつくれ。」こんな言葉を忘れてはならないように思います。急ぎの大切な仕事ほど時間をかける。「品格」や「見識」を身に付けるには、時間がかかることですが、目の前の子どもたちの育ちには待たないに急がれ、認め、ほめて、伸ばす必要があります。

ところで、「論語」に出てくる子(孔子)は品格も見識もまず「知る」ことから始めなさいと勧めています。陸上競技の百メートル走では見えにくいのが、大阪国際マラソンの福士選手や箱根駅伝の学生たちの長いレースの中に、感じ取れるものがありました。ゆつくり時間をかけて、子どもたちを見守ること。それでもほめて伸ばすには機を逃さないこと。言葉を選ぶこと。こんなことを感じました。(校長室だより・職員向け発行)

